

私の考えるインタビュー調査のポイント

前日までの準備

1. 対象者への協力依頼および個人情報への配慮
 2. 内省を活性化させる手段「事前アンケート」の配布回収
 3. 実践知を聞き取る手がかり「キーワード」の準備
- ・対象者に関する情報をできるだけ集めて理解しておく
 - ・何を聞くのか＝事前アンケート項目
(回想しやすくするために、時期、内容などを限定し、トピックスで表現してもらう)
 - ・聞きたい内容に複数の質問（切り口）を考えておく
(例：「コツを教えてください」：うまくいったときのイメージは、音で表現すると、実際どのように体を使っているのですか、スランプ時に意識するポイントは、)

当日の調査

4. 対話による語りの共同産出
 5. 聞き手の現場感覚および生成的視点
- ・教えてもらう
 - ・沈黙を怖がらない
 - ・できるだけ「はい」「いいえ」で回答させない
(「はい」「いいえ」回答の時には、直後に自分の声で、何に対して「はい」「いいえ」と答えたのか録音させる)
 - ・実はレコーダをきってから本音が聞ける！

調査後のデータ処理

6. 語りの内容の作成
 7. テキストの作成
 8. テキストの分析
- ・すべての発言内容を逐語録として文章におこす
 - ・発言の意味内容を全体として十分理解できるまで逐語録を熟読
 - ・発言の意味内容をくずさないように、文脈を尊重して「語りの内容」としてまとめる
 - ・「語りの内容」の妥当性と信頼性を保証するためにメンバー・チェック
 - ・「語りの内容」を「テキスト」として再構成する（トライアングレーション）
 - ・既存の理論にとらわれないよう「テキスト」を解釈
(調査してみて発見できたこと、他の実践者にも当てはまりそうなことを記述)
 - ・誰が読んでもそのようにしか解釈できないように、データ処理の作業を繰り返す